

ツルシギ *Tringa erythropus* (Pallas)

【選定理由】

春と秋の渡りに伊勢・三河湾沿岸部にある河口の干潟や水路、水田や湿地などに渡来する。かつては尾張、西三河、東三河の各所で、春期にそれぞれ 100 羽単位、多い時には 1 箇所でも 300～500 羽以上もの群れが見られたこともあるが、1980 年代の半ば頃から個体数が激減して、近年ではごく限られた場所に多くても 5 羽以下程度が飛来するに過ぎない。飛来数が 1/10～1/100 以下に減少している上に、現在もその少数羽がほぼ毎年飛来している場所は、県内の数箇所に過ぎない。

【形態】

全長 29～32cm、翼開長 61～67cm。夏羽は、全身が黒く背に白斑があり、脚は黒色でやや赤味を帯びる。冬羽は、上面が灰色で下面は白く、眉斑が目立ち脚は赤色。嘴はまっすぐで長く、黒色で下嘴の基部だけが赤い。飛翔時は、背と腰が白く見える。幼羽は冬羽に似るが、背は褐色味が強く腹や脇に褐色の横斑がある。



愛知県西尾市, 2004 年 5 月 3 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋に伊勢・三河湾沿岸の河口にある干潟や、干拓地の水田や水路などに飛来する。

【国内の分布】

春と秋の渡りで北海道から沖縄まで飛来し、ごく少数であるが、主に沖縄、九州をはじめ国内各所で越冬するものもある。

【世界の分布】

ユーラシア大陸北部で繁殖し、ヨーロッパ南部、アフリカ、インド、東南アジアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

伊勢・三河湾の沿岸にある干潟と、その周辺にある干拓地の水田や水路、湿地、埋立地の水たまりなどに飛来する。春に 100 羽単位の大群が生息した場所は、湾の奥にある河川の河口周辺の干潟で、海水より塩分濃度の低い水辺と、周辺に汽水や淡水の後背湿地がある環境であった。春は 3 月上旬から冬羽の飛来がはじまり 5 月末までには飛去するが、4 月末から 5 月には真黒な夏羽になり、その数百羽の群は圧巻であった。秋は幼鳥と冬羽の成鳥が飛来するが数は少なく、多くても 10 羽に満たない。脚が長いので比較的深い水中を歩きながら水棲生物を捕食することが大半であり、さらに深い場所では水に浮いて泳ぐこともある。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在は春に木曾川下流部や庄内川河口、境川河口、西尾市一色地区、汐川干潟、伊川津干潟などに数羽が飛来するが、毎年安定して飛来する場所は西尾市一色地区のみと思われる。減少の要因として、生息に適した餌の多い内湾の干潟や、湿地環境の消失が考えられる。

【保全上の留意点】

現在県内で唯一春秋共に少数ながら安定して飛来のある、西尾市一色生田地区の湿地環境を保全することと、他の地域でも干拓地や埋立地の遊休地に良好な湿地環境の復元を行うべきである。

【特記事項】

シギ類の中で、国内で越冬する種を除けば、春の渡りで最も早く飛来するのが本種である。他のシギ類の渡りは通常 4 月下旬からなので、これらに比べ 1 ヶ月以上も早いことになる。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.122. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)